

## 4-2 まち歩き点検の実施について

### (1) 概要

重点整備地区予定範囲内の具体的なバリアについて、場所等を把握するため、駅や全ての生活関連経路（候補）の総点検を実施しました。なお、生活関連経路（候補）は、全延長約 8.1km と広範囲長距離に及ぶことから、駅や主要な経路において高齢者や障害者の方にご協力をいただき、点検を実施しました（7月10日実施）。

この点検での指摘事項を踏まえて、後日、残りの生活関連経路（候補）について事務局が補完点検を行いました。

- 日にち : 平成20年7月10日（木）
- 時間 : 午前9時～午後0時
- 作業工程 : 集合（瀬戸市役所105会議室）
  - ⇒ まち歩き点検
  - ⇒ 点検マップの作成及び点検結果の発表（公立陶生病院5階 第1会議室）



- 点検内容 :
  - ・ 歩道、駅前広場の歩きやすさに対する問題点（幅員、舗装、勾配、段差等）
  - ・ 鉄道駅における移動しやすさに対する問題点（水平動線、垂直動線）
  - ・ 鉄道駅の施設・設備に対する問題点（券売機、改札口、休憩施設等）
  - ・ 歩道、鉄道駅における案内誘導に対する問題点
  - ・ 鉄道駅周辺における路上駐輪や看板の路上へのはみ出し等マナーに対する問題点
  - ・ その他施設を利用する上での問題点

○班構成 : 2班に分けて実施

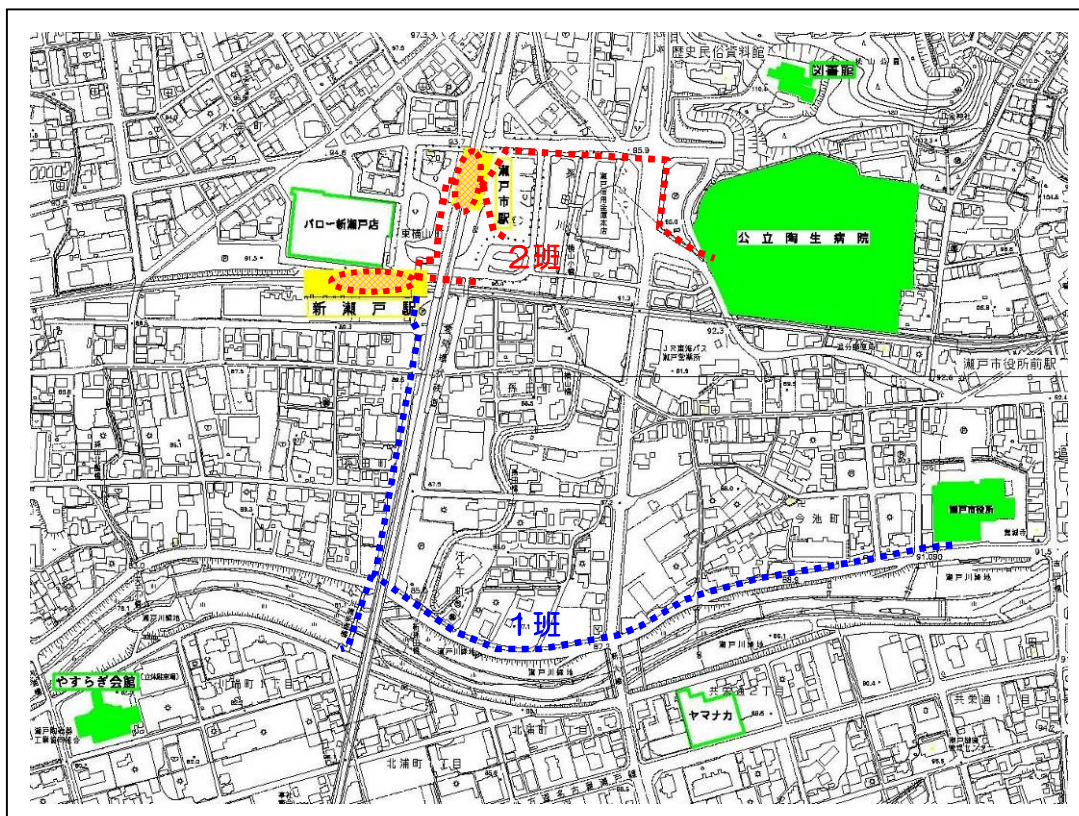
○参加者 : 合計39名

参加者		1班	2班	計
新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺 バリアフリー基本構想策定部会		1名	1名	2名※
高齢者		2名	1名	3名
身体障害者		2名	2名	4名
聴覚障害者		1名	2名	3名
手話通訳者		1名	2名	3名
視覚障害者		1名	1名	2名
介護者		1名	1名	2名
事務局	都市計画課	3名	3名	6名
	高齢者福祉課	1名	1名	2名
	社会福祉課	1名	1名	2名
	道路建設課	—	1名	2名
	維持管理課	1名	1名	2名
	生活課	1名	2名	2名
	コンサルタント	2名	3名	5名
合計		18名	22名	40名

※基本構想策定部会から、中部大学 磯部教授（部会長）、瀬戸市障害者福祉協会 杉浦会長（部会委員）が参加。

○点検ルート : 《1班》市役所 ⇒ 新大橋北交差点 ⇒ 新瀬戸駅

《2班》新瀬戸駅 ⇒ 瀬戸市駅 ⇒ 公立陶生病院



○点検マップの作成及び発表 :

まち歩き後、班ごとに点検結果を地図に落とし込み、点検マップを作成しました。その点検マップについて、各班の代表が発表を行い、それに対して意見を出し合って、参加者全体で問題点を確認しました。

《各班の発表内容（概要）》

1班

点検箇所	発表内容
<b>道路</b> (瀬戸市役所 ~名鉄新瀬戸駅)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすの前輪は小径で、幅も細いため、グレーチングや側溝の蓋の穴にはまる事がある。</li> <li>・路面復旧跡の段差やマンホールや消火栓の蓋、道路鉋は、つまずいたり転倒の原因になる。</li> <li>・金属製の蓋は、路面がぬれていると滑りやすい。</li> <li>・歩道の切り下げ部のすり付け勾配が急である。</li> <li>・横断勾配の下り方向に車いすが進んでしまう。側溝に蓋がないと落ちそうで怖い。</li> <li>・長すぎるスロープは移動しづらい。</li> <li>・舗装の色と種類によっては、段差を示すブロックが見えにくい。歩道の中央に白線があると歩きやすい（全盲ではない方）。</li> <li>・道路植栽帯の根により、歩道に凸凹が生じて歩きにくい。</li> <li>・頭の位置にある看板はぶつかるので危険である。</li> <li>・電柱の色や標識柱の色や厚みのないバス停は識別しにくく、歩行時にぶつかる。</li> <li>・階段などについている手すりは、夏場には熱くて触れない。</li> <li>・押しボタン信号の青の時間が短すぎて渡りきらないうちに信号が赤になる。（川端歩道橋北歩行者用信号）</li> <li>・路上駐輪をなくす対策を講じるべきである。</li> </ul>

2班

点検箇所	発表内容
<b>駅前広場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装面が凸凹している。</li> <li>・古いタイプの側溝の穴に車いすの前輪がはまってしまう。</li> <li>・バス路線図が分かりにくい。</li> <li>・インターロッキングブロック舗装がでこぼこしていて視覚障害者誘導用ブロックとの区別がつきづらい。車いすの走行性も悪い。</li> <li>・狭い歩道内に標識が設置されていることでさらに歩道を狭くしている。</li> <li>・駅前広場を駐輪場化すればよいのではないか。</li> <li>・バス停のベンチが視覚障害者誘導用ブロックに近すぎる。</li> </ul>

連絡通路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段のピッチが最下段の方だけ違うのは危険。</li> <li>・エレベーターを付けてほしい。</li> </ul>
名鉄新瀬戸駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレベーターを付けてほしい。</li> <li>・階段の手摺は両側ではなく中央にも付けて欲しい</li> <li>・ホーム上での線路側への下り勾配がきつく感じる。</li> <li>・障害者対応のトイレが設置されていない。</li> </ul>
愛環瀬戸市駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩施設が少ないので、ベンチを増やして欲しい。</li> <li>・出入り口の扉を自動ドアにして欲しい。</li> <li>・ホームでの情報や掲示板の文字が小さい。</li> <li>・エレベーターを設置して欲しい。</li> </ul>
道路 (瀬戸市駅前広場 ～公立陶生病院)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形上やむを得ない所もあるが、全体的に勾配が厳しい。</li> <li>・エスコートゾーンの整備が不十分である。</li> <li>・陶生病院のバス停付近の入り口にある階段は、最後の1段が道路側に下り勾配になっており危険である。</li> </ul>

### 《機部部会長による総評》

<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路整備を考える際には、景観的に優れたものを作るという意識を持つ前に、様々な人の意見を反映させながら当たり前のものを作るという意識を持つことが必要である。</li> <li>・瀬戸市における特徴的な問題点としては以下の2つがある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地形上の問題（坂道が多いことや、現状では十分な歩道空間が確保できていないこと） この問題への対応策を講じることは難しいと思う。しかし民地の敷地を上手に利用し、人が通行する歩道の勾配を車道の勾配より緩やかにするといった対策など考えられる。</li> <li>② 境界の問題 境界は、鉄道駅の中と外、視覚障害者誘導用ブロックと舗装部分など様々考えられるが、これらの境界における問題点が多くあったように感じる。この境界に対する問題へ対応するためには、様々な人、事業者の共通の理解と協働が必要となる</li> </ul> </li> <li>・今回の点検は晴天の昼間時に実施されたが、夜間、雨天時、強風時等の、様々な条件に対応したバリアフリーが必要となる。また、今回指摘された危険箇所・問題点は、参加者が利己的に指摘したものではないため、行政側はしっかりと受け止め、今後の対策へつなげていく必要がある。</li> </ul>
---

### 《点検マップ》

